糸数壕（アブチラガマ）見学のしおり

1, ねらい

糸数壕（アブチラガマ）の見学を通して、暗い壕で避難生活をした住民の気持ちを想像するとともに、戦争の悲惨さや平和の尊さを理解する。

2, 日時

令和７年６月１２日（木）　１組　９：００～１０：００

２組　９：１５～１０：１５

3, 準備する物

かい中電灯・軍手・ハンカチ・ぼうし（晴れの日）・カッパ（雨の日）・

汚れても大丈夫な動きやすい服（できれば薄長そで・長ズボンがよい）・着替え・タオル（学校に戻ってから）

4, 見学の約束

（１）バスや車の乗り降りは、決まりを守って順序よく。
（２）糸数壕（アブチラガマ）見学では、ガイドの方の指示にしたがい説明をよく聞く。
（３）危険な所に近づいたり、いたずらや自分勝手な行動はしない。
（４）見たこと、聞いたこと、気づいたことを総合ノートに書けるようにする。

5, 糸数壕（アブチラガマ）について

南城市玉城市字糸数にある全長約270mの病院壕。当初陸軍壕や住民の避難壕として使用していたが、戦況が激しくなるなか４月下旬より病院壕として使用される。1000 名近くの傷病兵を収容していたという。５月下旬撤退命令によりひめゆり部隊等は砲弾の中南部（摩文仁）へ向かう。

自力で歩行できない傷病兵は毒薬を盛られたり、置き去りにされたりした。その後、壕に残った敗残兵や住民等の壕内での避難生活は８月下旬まで続いた。傷病兵の治療も、薬品等の不足にてままならず、麻酔せずに手足を切り落とすこともあったとのこと。沖縄戦における組織的な戦闘が終結した後も、投降の呼びかけには応ぜず（応じれば敗残兵に殺害される）、米軍は火炎放射等にての攻撃を行った。

現在も、火炎放射の黒焦げの後や暴風の後等がある。